

Special Needs Education Research Center

SNERC通信

(第16号-2010年3月)

国立大学法人 筑波大学
特別支援教育研究センター
センター長：藤原 義博
〒112-0006 文京区小日向 2-16-15
TEL&FAX：03-3942-6923
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>
mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

■ 平成21年度現職研修生 研修成果報告会及び修了式を行いました。

平成22年3月9日(火)に筑波大学東京キャンパス大塚地区 第一会議室で現職研修生の成果発表会が行われました。今年度からは現職教員の研修は特別支援教育専攻での講義、特別支援教育研究センターの演習、附属特別支援学校での実習の3つの場で行われましたが、それぞれの場での研修を生かした質の高い成果発表が行われ、発表の内容をさらに深める活発な協議がなされていました。また附属学校の教員のみなさんも多数参加いただきました。研修成果報告会終了後、修了式が行われました。



■ センター主催3月セミナーが開催されました。

平成22年3月29日（金）に特別支援教育研究センター主催セミナーが行われ、学内外から約120名の参加がありました。

第Ⅰ部では安藤隆男教授が「同僚性」と「連携」という観点から、特別支援教育に求められる専門性について講演しました。第Ⅱ部では、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、自閉症の専門的な教育実践を担っている附属特別支援学校間での連携研究の経過と成果について報告し、障害種別を超えた連携研究の在り方や課題について協議を深めました。

今回は大塚特別支援学校の体育館で開催しましたが、これまでの連携研究の経過や成果や実践研究の成果についてのポスター発表、附属特別支援学校で配慮工夫された教材教具の展示を併せて行いました。

安藤先生



桐が丘 田丸先生



桐が丘 松本先生



大塚 安部先生



会場 大塚の体育館



ポスター・教材展示



■ 現職教員研修生の「研修日記」

平成21年度の現職教員研修生は各附属特別支援学校での実習，特別支援教育専攻の講義，特別支援教育センターでの演習を通じて研修を深めてきました。3月9日には研修成果報告会・修了式が行われました。今年度最後の「研修日記」は桐が丘特別支援学校で実習行っていた深草先生と藤村先生から寄稿いただきました。

「特別支援学校における脳性まひ児の「見えにくさ」に配慮した授業づくりと通常の学級への展開」

平成21年度研修生 千葉県立袖ヶ浦特別支援学校 深草瑞世

筑波大学特別支援教育研究センターでの1年間の研修が修了しました。私は、長期研修という機会をいただき、自分の学校から離れ、いろいろな分野で活躍している方々と出会うことで、今までの教員生活を振り返ることができ、そして今後の自分の指針を得ることができました。

今までの私は、肢体不自由のある子どもたちにとってより良い授業，より良い支援は何か，と考えるときに、肢体不自由教育で培われた知識と経験で考えることが多かったです。しかし、センターでの授業や筑波大学の講義を聴講したり，多くの学校を参観したり，周りにいるたくさんの仲間と話し合ったりすることで，障害種を超えた教育の必要性を痛感することができました。多種多様な教育や先行研究に触れることは，新しい知識や考えかたを自分の中に吸収すると同時に，自分の置かれている状況，立場，自分の考えや認識を改めて考えることにつながりました。

また，一年間を通して研修報告書を作成，発表することで，自分の考えを整理することができました。指導教員やセンターの先生方にご指導をいただいたり，筑波大学附属桐が丘特別支援学校での授業を参観させていただく中で，今までの実践を詳細に捉える目と，俯瞰して捉える目が必要であること，そしてそのバランスが重要であることを学ぶことができました。

このような充実した研修を行うことができたのも，センターの先生方のご配慮と同期の研修生の支えがあつてのことだと思います。本当にありがとうございました。この研修で得られたご縁をこれからも大事にしていきたいです。

四月からは，現場に戻って授業を行い，子どもたちと一緒に過ごす日々に戻ります。筑波大学特別支援教育研究センターで学んだことを，少しでも，子どもたちに還元できるように，より良い授業を行っていきたくと思います。また，研修生活をこの一年間で完結せず，これからも，日々，研鑽につとめたいと思います。

一年間ありがとうございました。そして，これからもよろしくお願ひします。

深草先生



藤村先生



21年度研修生



「肢体不自由児の自立活動と教科学習のあり方に関する研究」

平成21年度研修生 埼玉県立日高特別支援学校 藤村良男

1 研修を希望した理由

現在の所属校に赴任して以来、病院内訪問教育や自立活動部での勤務を通して、自分自身の力量のなさを痛切に感じていました。そのため、一定期間現場を離れて自分の実践を振り返り、新たな力量を身につけたいと考えていました。しかし、私には日常的に関わっている研究機関などもなく、具体的な研修先を探している状態でした。そんな中で学校の壁に貼ってあった本研究センターのポスターに出会ったのです。特に指導法について学びたいと考えていた私にはぴったりの「指導法研修コース」が設けてあり、自宅の埼玉からも1時間程度で通える範囲だっただけに、すぐにセンターに問い合わせ、研修の希望を伝えたのでした。

2 研修内容について

私は肢体不自由児教育の専門性を高めたいと考えていましたが、他の障害種について学ぶ機会が多く設けられていたため、最初は多少違和感がありました。しかし、研修のまとめの時期になると他障害種について学ぶ機会があったことが非常に有効に感じられました。それは他障害種を知ることによって肢体不自由児教育を客観視することができたからです。そして、具体的な支援方法についても共通する部分が多く、これからのインクルーシブ教育（共生教育）に生かせることが数多く見受けられました。

また、研修のカリキュラムは自分のペースで組むことができ、就学前の幼児二人を子育て中の私にとっては無理なく学べることができました。そして研究センターや指導教員の先生方、附属学校の先生方におかれましては私たちの研修について全面的にバックアップして下さい、なんとか研究の成果をまとめることができました。

3 研修で得られたこと

具体的な成果については報告書に譲りますが、まずはなんと言っても人とのつながりが大きいです。普段、研究している先生方のアドバイスを日常的に聞ける機会はそうありません。また、共に学んでいる研修生仲間との意見交換も大変参考になりました。私はこの交流の中で、人とのつながりが「学び」の大切な柱となることを実感しました。

4 これからの自分に、そして…

桜の花びらが舞い散る時期にセンターの門をくぐった1年前がとても懐かしく感じられます。4月にはいよいよ所属校に帰るわけですが、おそらく1年前の自分とは変わった視点で教育活動に参加できるのではないかと思います。あっという間の1年でしたが、センターの先生方をはじめ、附属諸学校の先生方、そして研修仲間みなさん、ありがとうございました。本当の意味で、私たちの関係はこれからが始まりだと思っています。

■ 特別支援教育研究センターの一時移転を終えました。

平成22年3月12日（金）に旧文京5中への一時移転を終了しました。センターは4階、5階に位置していて窓から東京の風景が一望できます。平成23年3月末には新築された茗荷谷キャンパスに戻る予定です。なお旧文京5中（小日向キャンパス）には駐車スペースがありません。

